

東北の短い夏 お盆の各地で盆踊りが行われる

町に帰る人も、帰らない人も、盆踊りは地域共同体の要

8月のお盆を前後して、東北の各地で夏祭り・盆踊りが行われます。

檜葉町の上井出地区では、福島第一原発事故後、初めての盆踊りが行われました。地区では、住民の人達が集まって、竜田駅周辺のまちづくりをどうするかについて、1年以上にわたって、町と一緒にワークショップを行ってきました。その話し合いの中で、盆踊りを復活させようという意見が盛り上がり、開催の運びになったのです。

原発事故から8年4カ月ぶり、4年半の避難生活が終わってから4年ぶりの盆踊りの復活です。檜葉町は6月末で、住民登録をしている住民は6,881人、その中で檜葉町に住んでいる住民は3,671人（54.66%）です。この中には私のような新住民も含まれるので、実際に町に帰ってきた住民は約4割強です。

上出地区の盆踊りは8月15日に龍田神社で開催されました。櫓もかき氷やスーパーボールの出店も、すべてが地元の人達の手作りです。子供がいつになく多いと思ったら、お盆で避難先から親と一緒に実家に帰ってきた子供が多いとのこと。多くの人が踊っていますが、盆踊りをしないで、話に花を咲かせているグループもあります。町に帰ってきた人も帰らない人も、盆踊りは地元の人たちにとっては再会の場なのです。私は踊らないで、縁側に座って盆踊りを見ているだけです。知っている人達とあいさつを交わすと、私も檜葉町の町民になったのかな、と思います。盆踊りを見ながら考えました。被災地の多くの地域で、盆踊りが行われました。未だに町民全体が避難している双葉町では、いわき市勿来の仮設住宅で、盆踊りが行われました。双葉町の盆踊りは、今でもハワイの日系人の間でも唄い踊られています。この盆踊りは、映画「盆歌」になりました。

地域は、人が生活するだけではありません。コミュニティだけでもありません。風俗・慣習・歴史・芸能・文化、これらのことが一体となって、地域の共同体を形作っているのです。3・11の大震災や原発事故によって、被災地の多くでは、地域共同体が壊されました。しかし、人間は盆踊り等に励まされて、地域共同体を再生しようとするエネルギーを持っているのです。

しかし、町に戻って来る町民の割合は、富岡町と浪江町で約2割、大熊町と双葉町で約1割です。果たして、地域共同体は再建できるのでしょうか？

東北の六大祭り（仙台・七夕、盛岡・さんさ、青森・ねぶた、秋田・竿灯、山形・花笠）は、8月上旬に一斉に行われます。それは東北の夏の始まりです。一方、お盆の盆踊りは、東北の短い夏の終わりでもあるのです。時間がゆっくりと流れます。セミの大合唱が終わったら、今度はコオロギの大合唱が始まります。猛暑が続きますが、東北の秋はもうそこまで来ています。

【8年4か月ぶりに再開された手作りの盆踊り（8月15日龍田神社（檜葉町）】



【町に帰った人も帰らない人も共に踊りの輪に（8月14日交流施設アゼリア（葛尾村）】

